

令和3年度 丹波中学校経営方針

村の人口約550人、小中の児童生徒は減少の一途、急激な少子高齢化、雇用の不足、日本社会の縮図が丹波山村にある。この状況を打破する切り口として、親子山村留学制度がある。これなくして学校の存続は厳しい。これらの状況を踏まえ、学校経営においても、「村と学校の明るい未来を創造する覚悟」をもちたい。そして、生徒・保護者・地域・行政・職員が、一丸となって、「ふるさとを愛し、ふるさとから学び、ふるさとを創造する丹波中生を育成する」ことは、我々の使命であることを確認したい。はじめに、以上のことを確認する。

これからの社会において、自ら学ぶ意欲と社会の変化に主体的に対応するために必要な、思考力、判断力、表現力などの能力の育成を図るとともに、基礎的・基本的な内容を重視し、個性を生かす教育を充実する。また、心豊かで健やかな体をもつ心身ともに充実した生徒の育成を図る。つまり、「知・徳・体」の調和と充実こそが、必要不可欠であるといえる。一人ひとりを大切にする個別最適化としての丸ごと受け止める教育を、さらに推進する。その上で、将来たくましく生きぬくための基盤づくりとしての「丹波中教育」を展開するものである。

1. 学校教育目標

教育基本法、学校教育法、教育委員会の示す規則等の理念を踏まえ、時代の求める人間像や地域の教育要望、生徒の実態を踏まえて、次の目標を設定した。

ふるさとを愛し、ふるさとから学び、ふるさとを創造する生徒の育成

- (1) 知：自ら学び続ける生徒
- (2) 徳：自分に厳しく、他人にやさしい生徒
- (3) 体：心身ともに、たくましい生徒

※「ふるさと」とは、人・家族・学校・地域・歴史と文化・自然をさす。さらに、「ふるさと」は、日本、世界をさす。すべてにおいて、明るい未来を創造する原点が、「丹波中教育」にあるととらえて向かうものである。

2. 学校経営の重点

県や村の指導重点を基本にすえ、全職員が学校経営に対する強い参画意識を持ち、弛まぬ研究実践により学校教育目標の一層の具現化を図るため、本年度の経営重点を次のように設定する。

- (1) 「**特色ある学校づくり**」を目指した教育課程の編成・実施に努め、「**知・徳・体の調和**」を重視し、「生きる力」を育成する。
- (2) 「**確かな学力**」の育成を目指し、基礎基本の定着を図るとともに、個々の能力を最大限引き出す指導を行う。
- (3) 「**小中連携**」を推進し、9年間を通した教育の積み上げをねらい、基礎的な能力及びその基盤となる体力の伸長、基本的な生活習慣の確立、物事に粘り強く取り組もうとする姿勢や態度の向上を図る。
- (4) 全ての生徒が豊かな学校生活を送れるよう、「**少人数を生かした学級づくり**」を基盤に個性の伸長を目指した教育を推進する。
- (5) 不断の研鑽に励むとともに、「**やまなしスタンダード**」の更なる意識化等、自らの資質向上に努める。
- (6) インクルーシブ教育の構築に向けた気になる生徒に対し、「**チーム支援**」（組織的・協力的指導体制）を確立し、「**丸ごと受けとめる教育**」の実践に努める。

- (7) 家庭・地域との連携を深めた危機管理体制を図り「信頼され開かれた学校づくり」に努める。
- (8) 「ふるさと教育」の推進を図る。(人材の活用、自然体験、伝統行事の継承、村民との交流、親子山村留学、CSの推進など)
- (9) 「道徳教育」の充実を図る。全校道徳を推進する。
- (10) 「ICT教育」を推進する。(iPadの活用/電子黒板の活用/オンラインの積極的活用等)

2. 目指す生徒像 【知・徳・体の調和と充実】

- 知：自ら学び続ける生徒
- 徳：自分に厳しく、他人にやさしい生徒
- 体：心身ともに、たくましい生徒

3. 目指す教師像 【生徒への深い愛情・誇りと品格を持つ教師】

- 学校教育目標に向かって、主体的に参画する教師
- 「問題は、教師の側にあり」を信条とする教師
- 心身ともに健康な教師
- 自ら学び続ける教師
- 自ら言葉・身なり・行動を律する品格ある教師

4. 努力点

- (1) 特色ある教育課程の編成と実施に努め、個に応じた指導方法の工夫と自ら学ぶ意欲・態度を育てる学習指導に努める。
 - ① 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた研究と実践
 - ② 少人数指導を生かしたICT活用授業(含:オンライン)の工夫と改善。(一人一実践を行い、力量を高める)
 - ③ 基礎的・基本的な知識技能の習得と思考力・判断力・表現力等、学びに向かう力・人間性等の育成を図った学習活動
 - ④ 特別支援教育に関する教職員の専門性の向上と特別支援教育の充実
 - ⑤ 授業UDの実践を通して、「すべての生徒にわかる授業」の創造
 - ⑥ 家庭学習の「量から質への転換」への在り方を検討し、家庭と連携した学習習慣の確立
 - ⑦ ALTを活用した異年齢集団での学び合いを通しての国際感覚の育成
 - ⑧ 職場体験(3日間)や高齢者との交流会等体験活動の重視
 - ⑨ 地域に根ざした総合的な学習を推進し、課題解決能力の育成
- (2) 生徒指導の充実と適切な進路指導を図る。
 - ① いじめのない、安心して楽しく過ごせる学級づくりの推進
 - ② 道徳の時間を大切にされた道徳的実践力の育成(全校道徳の実践)
 - ③ キャリア教育の視点を取り入れた進路学習の充実
 - ④ 音楽活動を通じた豊かな情操と愛校心・所属感の育成
 - ⑤ スクールカウンセラーや各種諸機関と連携し、信頼と思いやりに基づく指導
- (3) 健康・安全教育と体力づくりの推進を図る。
 - ① 自然体験(全校登山/川体験/森林体験など)・部活動等を通しての基礎体力づくりの推進
 - ② 地産地消を取り入れた食育の推進

③ 養護教諭・栄養教諭との密接な連携

(4)信頼される学校づくりに努める。

- ① 交通事故防止と防災活動の徹底、学校環境の整備と安全管理・指導の徹底等学校危機管理体制の確立
- ② 学校経営・運営の指針となる学校評価づくり
- ③ 地域と連携を密にし、地域に開かれた学校づくりの推進
- ④ ホームページの日常的な更新
- ⑤ 信頼される教職員(あいさつ・言葉・身なり・行動・品格)

★コロナ禍は、収束の気配が見えない。故に、様々な状況判断において、できる限りの知恵と努力を結集し、一致団結して学校教育目標の実現に向かう。ただし、過剰な取組や負担は縮減し、メリハリある学校運営をめざす。生徒・保護者・地域の皆様方にも、ご理解いただけるよう最大限の努力を行う。

★村内においては、学校の存続、村の未来等について、議論が進んできた。今まさに、丹波中の丹波山村の明るい未来を創造するための実践を、村ぐるみで展開する必要がある。教育戦略会議、CS準備会議、未来会議などの進捗状況を把握しながら、特色ある学校づくりをすすめたい。